



がんばろう越谷

越谷再生へ・がんばる越谷から日本を回復しよう

No.83 越谷市長選挙特集第3弾

発行:白川秀嗣

〒343-0045 越谷市下間久屋477-12

TEL&FAX 048-979-3027

Mail shirakawa110@gmail.com

一心太助
幕政に物申す

私たちは政治をあきらめない

市長選に向けた私と市民の7つの対談

政治は私たちの日常そのものです。「どうせ何も変わらない」と私たち自身が思い込んできた結果が今の社会であるとするならば、私たち自身がもう一度「やってみよう」と思えば、新しいことが始まります。越谷市長選挙特集の最後は、「政治をあきらめていない」7人の市民の方との対談をご紹介します。実際の動画はQRコードより、youtubeの公式チャンネルにてご覧ください。

障がい児をもつ父親として

辻純志郎さん(40代介護職)

この子が大きくなった時に少しでも困らないようにお金を残そう。必死に働いた結果、辻さんは自分の身体を壊してしまいます。行政や教育では何の支援が必要なのか。また、それを受ける当事者の姿勢はどうあることが望ましいのでしょうか。

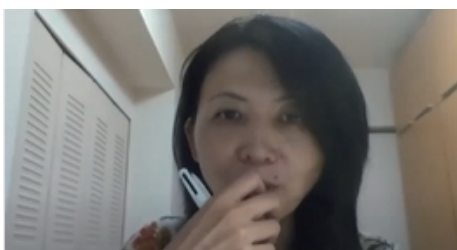


辻さんの動画



PTA、子ども食堂などで活動中

佐々木郷美さん(小学校PTA役員)



佐々木さんの動画

東日本大震災で感じた食や健康について。原発や放射能のことを学ぶうちに、「くらしは政治である」という思いが強くなった。組織づくり人づくりを仕事にしていた彼女ならではの地域のつくりかたとは？ 経済重視の社会から、人とのつながりを大事にする社会へ。

介護から見た社会保障制度の今後

中野昌子さん(主婦)

自分の人生の最後に死があることを日ごろから考えるという習慣をもつという発想は、父親を看取った時の経験から感じたこと。自分の命にもみんなの命にも限界があって、だからこそ社会保障を継続することを考えていくことが大切という彼女の想いとは？



中野さんの動画



Z世代、現役大学2年生からの視点

保科大喜さん(琉球大学2年生)

コロナ禍で学生に必要なのは経済的な支援。でも、次の選挙の争点ではどの候補者もこの件を出してくるでしょう。そうしたら、他に何を基準に投票する人を選ぶのでしょうか。感情論で考える人が多いのではないかと保科さん。「専門用語」が分からなくても投票しようと思える環境づくりという提案がありました。



保科さんの動画



高橋市政の12年は何だったのか

山田大助さん(越谷市議会議員)



山田さんの動画

高橋市政12年の中で、これは評価できること、これはあまりうまくいかなかったことなど、議会という場で市長のとりくみをチェックしてきた現役の議員だからこそ話せることが盛沢山。しかしそれは越谷市だけの課題だけではなく、多くの自治体である話なのでしょう。市民と市政の関係のありかたなど、聞きどころが満載です。

コロナ禍の文化的な活動

斎藤真理子さん(地域劇団 団員)

コロナ禍でどうやって演劇を続けるのか? どうしてそこまでしてやるのか? 基本になるのは、「地域のこどもたちの心を開放する」力が芸術にはあると信じていると斎藤さん。彼女たちの試行錯誤はやがて「新しい手法」として表現の幅を広げることとなりました。子どもだけではなく、大人に向けても発信することで「自分にもできるかも?」と思ってもらいたいという願いは、コロナだけでないこの先の未来に向かうまっすぐな道のように見えました。



斎藤さんの動画



中小企業の地域への関わり

吉田理子さん(中小企業経営者)



吉田さんの動画

中小企業に降りかかったコロナ禍の影響。補助金、助成金でなんとかしのいでいるけれど、この先ずっとこれで良いのか。今のままでは「助成金をもらうための事業計画」になりかねないと吉田さんは話します。今回は自分の会社が地域の中に根差すとは、どういうことなのかを社会的に考えるひとつの例として産業振興条例が挙げられました。

越谷市長選の投票日は
10月31日(日)

福田あきらさんは
白川ひでつぐと
行動を共にします!

